

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 55

今月のテーマ 年初には家計チェックを…!

読者の皆様、「あけましておめでとうございます」 本年もよろしくお願い申し上げます。

先月号で、「災害に備え火災保険の点検と補償内容を考える」との予告をしたが、気まぐれな悪い虫が騒ぎ出し、急きょテーマを変更することとしました。期待して待っていた皆様ごめんなさい。「新年に相応しい内容」にしようと思っているにも拘らず、新年が近いことが私の頭から欠落していたのでございます。「反省」。災害のテーマは改めて取り上げますので、ご容赦願います。

さて、反省ばかりもしてられないので、本題に入りますが、近年のお正月は、年を追うごとにお正月らしさというものが薄れているような気がしてならない。「1年の計は元旦にあり」、という事で新年の厳かな気分の内に今年1年を考えてみよう。

「1年の計は元旦にあり」の意味を改めて考えてみると、「一年の計画は年の初めである元旦に立てるべきであり、物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だ」、とことわざ辞典に書いてあった。ならば、「1年の家計は元旦にあり」と称し、今年1年の家計を考えてみることにしよう。

日頃、何気なく使っている言葉だが、そもそも家計(かけい)とは何だろうか?平易に言うと、一家の経済的なやりくり(収入・支出)の全てを総称するもので、夫や妻の月々の収入から、家族全員に係る1ヵ月の生活のもろもろの支出、貯蓄、保険、ローンの支払いなどの、全ての収支を意味するものと考えてほしい。この家計を記録するものとして、「家計簿」があるが、それ自体を持たない世帯も多いし、たびたび挑戦するも挫折してしまう方も少なくない。また、頑張っけてはいるものの、生活設計・将来設計に生かされているケースはましてや少ない。

前置きが長くなったが、今回は家計簿の話ではない。年初に改めて家計を考えようというものだ。



家計を把握する

皆さんのご家庭の家計は誰が握っていますか?誰がどうと言う訳ではないが、どちらか一方に任せっきりになっているケースが少なくない。中には家計を握っている本人でさえ、正確な現状を把握していない事さえある。そのまま放置するという事は、ガソリンの油量計が壊れている車でドライブを続けているようなものだし、何時ガス欠になるか分からない。

では、なぜ放置されているかを考えると、その理由の多くは、どうやったら良いのか分からないというものだ。さらに深刻なのは、問題の所在を感覚的には分かっているが、その現実を見たくないという場合だ。気持ちには分らないが、今年は気持ちを入れ替え、意を決しバンドラの箱を開けてみようではないか。今年(つまり)は、きつとウマク行くに違いないし、その後に食するニンジンもきつとウマイ(美味い)はまだ…。

家計のバランスシート(貸借対照表)を作ってみよう

バランスシートとは、家計の資産と負債を対比させ計算することで、家計の「純資産」がどのくらいあるのかを調べることができるものだ。



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

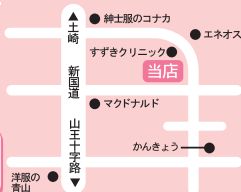
あなたの夢の実現へのお手伝い!!

- 家計の見直し・生活設計
- 住宅取得、住宅ローンの見直し
- 保険加入・見直し(生命保険・損害保険)
- 年金・老後資金準備
- 相続・遺産分割

相談料は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

株式会社
total life support 募集代理店 トータルライフサポート
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間: 9:30~19:00 ● 定休日: 水曜日
TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp



また、負債の大きさや資産の偏り具合などから家計の状況を、診断することもでき、家計の体力や健全性を図るものとして利用することができる。方法としては、ある一定の日における資産と負債を対比させるのだが、毎年12月末時点で作成するのが良いだろう。

まずは左側の資産の部を記入してみよう。資産の部は、上が流動資産(現金化しやすいもの)で、現金・預貯金などが挙げられる。下は固定資産で、大別すると、無形の「有価証券や生命保険資産」と、有形の「不動産(土地・建物)や車両などが挙げられる。

では、順番に記入していくとしよう。
【金融資産①】預貯金の場合は通帳などの残高を転記すれば良い。

【固定資産②】有価証券の金額は購入した金額ではなく、現在の評価額(売却した場合の金額)

【固定資産③】生命保険は保障の金額ではなく、解約した場合の金額を記入する。保険会社に照会することで確認する。払い込みの保険料合計額とイコールにはならないし、契約内容によっては、そのギャップに驚くことになるかもしれない。もっとも、それが保険の良し悪しを決めるものでもない。

【固定資産④】有形の土地建物や車両などが代表的だが、その他には宝石や書画骨董などもこれにあたる。不動産の価格は「一物四価」とも言われ、実にややこしい。公示価格・基準地価・路線価・固定資産評価がこれであるが、ここで記入する金額は、そのどれでもなく、今売却するといくらで売れるか、いわゆる時価であることに注意が必要だ。「一物四価」どころか「一物五価」だ。

これで、資産の部のすべてを記入したことになるが、この総額(①+②+③+④=A)が我が家の総資産と言っただが、果たしてそうだろうか？その答えは「負債の部」の記入の後、

純資産がプラスかマイナスかで見えてくる。

● 負債の部の記入

資産の総額が出たところで、右側の負債の部の記入となる。その項目は、金銭にて返済すべきものの全てが該当するが、友人や親兄弟からの借金も、奨学金の返済なども当然に含まれることになる。その全ての合計が、負債総額(B)となる。

さて、問題はここから表内の(A)から(B)を引いて、我が家の純資産ということになる。

● バランスシートの分析

記入することが目的でないことはもちろんだが、ここから資産及び負債の状況が一目でわかるし、家計の余力やリスクの大きさなども見えてくる。資産の構成比から片寄りも見えてくる。ざっくりとみて、純資産の金額のプラスが大きければ大きいほど健全な家計と言えるが、もし結果がマイナスとなった家計は要注意と言える。

マイナスの場合は、資産を負債が上回っているわけだから、我が家の資産は借金で作られているということになり、資産の全てを売却しても負債が残ってしまうということだ。そういう意味では、資産が大きければ良いと言っただけなく、資産の総額が小さくても、資産が負債を上回っていればリスクは少ないと言える。住宅ローンや、キャッシング・カードローンの多い家計にマイナスとなるケースが多いが、ココの部分の改善に向けた対策を取ることが重要となってくる。

サンプルの秋田一郎家の場合を見てみると、資産合計A(1852万円)ー負債合計B(2008万円)＝純資産(▲156万円)となり、債務超過となっている。

細かく見ると、預貯金がありながらカードローンとクレジットに利用があるが、これは高い利息

で借金をして、低い利息の貯金をしているに等しい。土地建物の時価額は合計1290万円だが、残債が1800万が残っているため、売却しても510万円のマイナスとなってしまう。

ここから、取るべき対策が見えてくるわけだが、カードローンとクレジットは、株式の売却や金融資産を当てて無くしてしまうことが考えられるし、住宅ローンに関しては今後の繰上返済により、その差を埋めていくことが必要だ。

同じバランスシートは二つとして存在しないし、取るべき対策も当然に違ってくる。何ともあれ、まずは作ってみるべし!! 正月の酒が醒めてしまうかな…。

サンプルとブランクのシートは左記のホームページのトップ画面の下の「お知らせ欄」からダウンロードできます。
<http://tis-akta.co.jp/>

来月号は、**バランスシートで全体像が見えてきたところで、今度は毎月の家計の収支を見てもいいことになりそう。**

資産				負債				
項目	細目	メモ	金額	項目	細目	メモ	金額	
流動資産	金融資産①(預金等)			1,120,000	負債合計(B)			20,080,000
	現金	A銀行	200,000	住宅ローン1	C銀行		18,000,000	
	預金	A銀行	500,000	住宅ローン2				
	財形貯蓄	B銀行	300,000	マイカーローン	D銀行	1,350,000		
	貯金	Y銀行		カードローン1	リボ払い	350,000		
	積立預金	C銀行	120,000	カードローン2				
固定資産	固定資産②(無形)有価証券等			500,000	クレジット		380,000	
	株式		500,000	キャッシング				
	投資信託							
	債券							
	固定資産③(無形)生命保険等			3,000,000				
	終身保険	〇〇生命	700,000					
	養老保険	〇〇生命	800,000					
	年金保険	〇〇生命	1,500,000					
	固定資産④(有形)不動産等			13,900,000	純資産(A)-(B)			-1,560,000
	不動産	自宅土地	7,000,000					
不動産	自宅建物	5,900,000						
車両		1,000,000						
車両								
宝石								
資産合計(A)			18,520,000	負債+純資産 合計			18,520,000	